

実体経済の動向

◇生産は根強い増加基調

(生産——4月も堅調な伸び)

鉱工業生産(季節調整済み)は、3月に前月比+0.9%と微増のあと、4月(速報)は+1.6%とかなりの伸びを示した。3ヵ月移動平均値でみても、1月前月比+1.5%、2月+1.1%、3月+1.7%と依然増勢を持続しており、企業の生産活動は月により若干のフレを伴いながらも総じてみれば引き続き根強い拡大基調を維持しているとみられる。なお、3月の確報値により44年度の生産の伸びをみると、前年度比+17.7%(43年度同+17.2%)と政府見通し(+17.6%)をわずかながら上回った。

4月の生産動向を特殊分類別にみると、一般資本財、耐久消費財を除いて各財とも増加した。なかでも建設資材の増加(前月比+10.0%)が目だったが、これは橋りょうの著増と金属製建具(アルミサッシほか)の増加によるもので、そのほか生産財も、鉄鋼は横ばいながら化学製品(化学肥料

を除く)、繊維の増産などから増加(+1.6%)した。また、前月減少の資本財輸送機械も小型四輪トラックが需要伸び悩みから減少の反面、鉄道車両、中・大型トラックを主体に微増となった模様で、非耐久消費財も前月微増のあとメリヤス製品等を中心に増加した。この間、一般資本財は前月増加のあと減少(-1.1%)を示したが、これはフレの大きい化学機械、重電機(大型変圧機・電動機)の減少によるもので、反面、金属加工機械(圧延機械、機械プレス)、合成樹脂加工機械、風水力機械(ポンプ、圧縮機・送風機)等は根強い増加基調にある。また、耐久消費財は乗用車のモデル・チェンジ控えによる在来型車種の生産手控えや夏物家電製品(冷蔵庫)の伸び悩みから微減を示した。

(出荷——4月は前月大幅増加のあと微減)

鉱工業出荷(季節調整済み)は、3月に船舶の引渡し集中から前月比+3.9%と著増のあと、4月(速報)は-2.8%の減少となった。当月の減少は、船舶の反動減によるところが大きく、これを除いてみれば-0.5%の微減にとどまり、また3ヵ月移動平均値では1月前月比+2.2%、2月+2.0%、3月+0.5%と引き続き増加している。なお、3月

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年	45年	45年		
			45年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月 3月 4月
鉱工業	182.5	190.1	199.2	205.5	206.5 208.4 —
前期(月)比	6.3	4.2	4.8	3.2	2.4 0.9 1.6
前年同期(月)比	16.8	17.1	17.7	19.0	18.6 20.5 —
投資財	5.4	4.8	7.2	7.9	3.4 1.5 3.1
資本財	5.2	5.4	7.2	10.1	3.7 1.9 0.5
同(輸送機械を除く)	7.5	2.7	10.2	12.2	1.1 2.1 1.1
輸送機械	0.3	9.8	1.8	5.7	9.5 0.2 —
建設資材	5.9	3.8	6.8	2.4	1.9 0.9 10.0
消費財	8.5	2.7	3.2	2.1	2.5 0.5 0
耐久消費財	7.8	5.0	6.6	4.9	3.3 2.0 0.4
非耐久消費財	6.2	0.9	1.5	1.6	0.8 0.1 1.1
生産財	5.4	4.1	4.8	3.1	2.0 0.1 1.6

(注) 1. 通産省調べ、45年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	44年	45年	45年		
			45年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月 3月 4月
鉱工業	178.5	184.7	192.5	202.7	200.5 208.4 —
前期(月)比	5.9	3.5	4.2	5.0	0.6 3.9 2.8
前年同期(月)比	16.2	17.6	18.0	20.2	19.3 20.9 —
投資財	7.9	1.0	5.4	10.3	-0.9 8.7 5.5
資本財	8.5	-0.3	5.5	14.0	-1.3 11.5 11.2
同(輸送機械を除く)	7.3	4.8	5.9	10.8	-0.1 2.4 2.5
輸送機械	9.0	-8.2	5.1	21.0	-4.0 28.7 —
建設資材	6.9	3.9	5.4	0.9	0.2 0.5 11.7
消費財	4.8	3.6	3.5	1.3	1.7 2.3 3.3
耐久消費財	3.1	9.6	4.8	-2.7	2.2 3.0 4.1
非耐久消費財	5.1	1.4	3.0	3.2	1.3 1.5 1.0
生産財	6.0	5.2	3.7	4.2	1.2 1.0 0.5

(注) 1. 通産省調べ、45年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

の確報値によって44年度の伸びをみると、前年度比 +18.0%(43年度同 +15.9%)と生産の伸びを上回った。

4月の出荷を特殊分類別にみると、資本財輸送機械は、前月大幅増加(+28.7%)のあと、上記船舶のほか軽・小型トラックの減少などから著減をみた模様であり、一般資本財は、合成樹脂加工機械、化学機械、風水力機械、金属加工機械等は増加したが、重電機(大型変圧器・電動機)を主体に減少(-2.5%)した。また、耐久消費財は前月かなり増加したあと-4.1%と減少を示したが、これは新車販売控えの乗用車が出荷減を示したほか、エアコンディショナー、電気冷蔵庫、洗たく機の伸び悩みが主因。一方、建設資材は橋りょうが大幅に増加したほか、前月減少をみたみがき板ガラス、窯業二次製品(耐火れんが、コンクリートパイプ)等も軒並み増加したため+11.7%と著伸を示し、生産財でも鉄鋼、化学肥料、石油製品(ナフサ、重油)を除き各品目とも増加した。

(製品在庫——製品在庫率は5か月ぶりに上昇)

鉱工業製品在庫(季節調整済み)は、3月前月比 +0.3%のあと4月(速報)は+1.8%と増加した。

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

	44年				45年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業指数	168.3	173.2	186.4	185.5	184.9	185.5	—
前期(月)末比	5.6	2.9	7.6	-0.5	-0.7	0.3	1.8
前年同期(月)末比	23.5	21.2	20.3	16.3	16.3	16.3	—
製品在庫率	93.2	91.8	95.0	89.0	92.2	89.0	93.2
投資財	3.4	0.4	11.0	3.3	-0.6	2.4	2.0
資本財	-1.3	-2.7	14.8	1.7	-2.9	-0.2	0.1
同(輸送機械を除く)	2.0	-4.9	14.1	4.0	2.1	-0.6	0.2
輸送機械	-16.2	9.5	18.3	-9.2	-20.1	-1.0	—
建設資材	9.3	4.8	6.7	5.3	2.3	5.9	2.5
消費財	8.4	6.7	7.5	-5.7	-2.3	-1.2	4.4
耐久消費財	18.8	9.8	5.7	-2.2	-1.5	1.3	4.5
非耐久消費財	2.8	1.1	2.4	-2.9	-3.1	0.2	5.0
生産財	4.3	-0.3	7.4	1.8	0.6	0.4	-0.2

(注) 1. 通産省調べ、45年4月は速報。

2. 前年同期(月)末比は原指数による。

特殊分類別にみると、耐久消費財が夏物家電製品(エアコンディショナー、卓上扇風機)、カラーテレビ、軽乗用車等を主体に前月に続いて増加(+4.5%)し、非耐久消費財も紙、灯油、繊維二次製品等を中心にかなり増加(+5.0%)した。また、建設資材も、板ガラスが減少したもののアルミサッシ、建設用陶磁器等を主体に増加した。反面、資本財輸送機械は中・大型トラックを中心に前月に続いて減少した模様であり、また生産財も鋼材(普通鋼冷延鋼板等)、板紙、合繊維物等が増加の反面、電子部品、化学肥料、ガソリン等が減少したため微減を示した。

以上のような出荷、在庫の動きにより、4月の製品在庫率指数は93.2(前月89.0)と5か月ぶりに上昇し、出荷からフレの大きい船舶を除いてみても92.3と前月(90.2)を上回った。

(原材料在庫——引き続き増加、在庫率も若干上昇)

4月の原材料在庫(製造工業、季節調整済み)は、3月+0.9%のあと、+1.7%と引き続き増加を示した。特殊分類別にみると、国産分素原材料、輸入分製品原材料がそれぞれ+3.1%、+8.6%とかなりの増加を示したが、国産分製品原材料、輸入分素原材料は小幅の増加にとどまった。

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年			45年		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
在庫指数	146.3	149.9	155.1	153.7	155.1	157.6
前期(月)末比	5.5	2.5	3.5	1.5	0.9	1.7
国産分素原材料	4.2	2.4	4.4	1.9	1.0	1.1
製品原材料	1.1	0.6	0.9	2.9	0.9	3.1
輸入分素原材料	5.8	2.9	4.7	1.3	0.8	0.5
在庫率指数	79.3	76.6	77.7	78.3	77.7	78.7
国産分素原材料	75.2	72.6	74.3	74.8	74.3	74.9
製品原材料	82.9	79.1	80.2	80.3	80.2	83.0
輸入分素原材料	75.6	73.2	75.0	75.7	75.0	74.9
在庫率指数	93.0	91.6	90.5	91.6	90.5	91.5
素原材料	94.4	91.5	91.0	91.7	91.0	91.8

(注) 通産省調べ、45年4月は速報。

業種別にみると、鉄鋼では年初来低水準に推移してきた鉄くず等素原材料の在庫がやや回復、石油でも輸入原油が増加をみ、機械工業(船舶を除く)では、特殊鋼鋼材が若干増加したが、反面金属製品(鉄構物架線金物用普通鋼)、船舶(鋼材)等では微減を示した。一方、原材料消費は3月+1.8%のあと、4月は+0.3%と微増にとどまり、この結果原材料在庫率は78.7、前月比+1.3%の上昇となった。この間、金属製品、船舶、機械工業等では原材料在庫率はいくぶん低下を示しているが、月々の消費のフレが大きいくだけに、これが意図的な在庫調整の反映とはなお判断しがたいように思われる。

(販売業者在庫——家電製品、自動車を中心に減少)

販売業者在庫(季節調整済み)は、2月+0.2%と微増のあと、3月は-1.6%の減少を示した。これは民生用電機、自動車の在庫調整進展に加え、石油製品が灯油、重油を中心にかなりの減少を示したことが主因であり、反面、鋼材、非鉄金属、洋紙等は前月に続いて増加した。なお、水準としてみると、自動車についてはようやく昨年12月を若干下回った程度ながら、民生用電機の在庫は昨年5～6月の水準まで低下している。また、鋼材在庫は前年同月比+17.3%(2月同+4.2%)と上昇しており、最近中間需要の減退に伴い需給が若干引きゆるみぎみとなっていることがうかがわれる。

販売業者在庫の推移

(季節調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	44年		45年	45年		
	9月	12月	3月	1月	2月	3月
総合指数	145.9	157.8	160.8	163.0	163.3	160.8
前期(月)末比	0.2	8.2	1.9	3.3	0.2	-1.6
素原材料	15.5	11.3	-4.2	-1.0	-2.5	-0.7
製品	-1.5	7.7	2.7	3.6	0.6	-1.4

(注) 通産省調べ、45年3月は速報。

(設備投資——引き続き根強い動き)

設備投資と関連の深い一般資本財出荷は、1～3月に前期比+10.8%(44年10～12月同+5.9%)

と著増のあと、4月(速報)は前月比-2.5%の減少を示した(原計数の前年同期比+24.4%)。品目別にみると、化学機械、重電機(大型変圧器・電動機)、農業用機械の落込みが目だったが、このうち化学機械についてはエチレン関連大型機械の引渡し一巡、農業用機械では輸内需の不振といった事情が響いており、また重電機の減少は一時的なものともみられる。この間、合成樹脂加工機械、金属加工機械(圧延機械、機械プレス)、風水力機械(ポンプ、圧縮機・送風機)、運搬機械(クレーン、コンベア、エレベーター)等の大型機種は増勢を続けており、設備投資の基調は依然根強いものとみられる。

先行指標である機械受注(船舶を除く民需、季節調整済み)は、4月には前月比-1.4%と3月(同-1.8%)に続き微減を示したが、前年同月比では+43.1%となお高水準にある。業種別にみると、製造業は鉄鋼(季節調整後+36.9%)、自動車(+50.2%)、繊維(+27.9%)等の著増を主因に+2.2%と3ヵ月連続の増加を示したが、非製造業は電力の落込み(-22.5%)が響いて、-6.2%と3月(-20.9%)に続き減少となった。この間、建設工事受注額(民間産業、季節調整済み、速報)は3月-4.5%と減少のあと、4月は+18.6%と著増した。3ヵ月移動平均値でみても、1月+4.7%、

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	44年		45年	45年		
	7～9月	10～12月	1～3月	2月	3月	4月
民需	2,113	2,224	2,739	3,228	2,695	2,767
	(+0.3)	(+5.2)	(+23.2)	(+40.6)	(-16.5)	(+2.7)
同(船舶を除く)	1,986	2,048	2,385	2,636	2,587	2,550
	(+7.4)	(+3.1)	(+16.4)	(+36.4)	(-1.8)	(-1.4)
製造業	1,252	1,358	1,410	1,409	1,559	1,595
	(+9.7)	(+8.5)	(+3.9)	(+11.5)	(+10.7)	(+2.2)
非製造業	864	859	1,360	1,906	1,143	1,167
	(-10.2)	(-0.6)	(+58.3)	(+84.8)	(-40.1)	(+2.1)
同(船舶を除く)	739	706	986	1,271	1,006	944
	(+4.5)	(-4.5)	(+39.7)	(+86.9)	(-20.9)	(-6.2)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

2月+1.5%、3月+3.3%と増勢を続けており、建設需要の根強さを物語っている。

5月調査の本行「主要企業短期経済観測」(対象企業523社)によると、45年度の設備投資計画は工事ベースで前年度比+16.1%(うち製造業+15.2%)と前回(2月)調査(+12.8%)を上回った。最近一部に着工繰延べや計画圧縮などの動きもみられないではないが、以上の調査結果からみて、企業の設備投資態度は総体としては依然根強いようにはうかがわれる。上期、下期別にみると、全産業では上期+9.2%、下期-1.4%と上期の大幅な伸びが目だっている。業種別の特徴をみると、石油化学を中心とする有機化学、窯業、卸小売などの伸びが前年度に比べ低下している反面、繊維、自動車、石油、造船、化学(無機化学中心)、食料品、電力などはいずれも高い伸びを示している。

◇商況は引き続き落着きぎみ

5月の商品市況をみると、化学品(化学肥料を除く)、重油は堅調を続けたが、反面鉄鋼が条鋼類を中心に軟調をたどったほか、繊維でも合繊、生糸が統落、綿糸、そ毛糸は反落を示し、また非鉄金属(銅、鉛等)、木材、紙等も値下がりするなど、多くの商品が弱含みに推移した。

このような最近の商品市況の落着きには、海外相場の軟化(鉄鋼、非鉄金属、砂糖等)、輸出環境の悪化(鉄鋼、合繊等)といった海外要因のほか、金融引締めによる中間需要の落着き気配や、新規設備の稼働に伴う供給力の増大(銅、合繊、紙・パルプ等)なども響いているが、そのほか、公共工事の端境期入り(鉄鋼、建材等)、梅雨控えなどの季節要因や、株価下落の影響(繊維)なども見のがせない。こうした状況から、メーカー、商社筋では市況軟調商品について生産の抑制(H形鋼、カラー平板、段ボール原紙、化学肥料等)や、出荷の調整(H形鋼、カラー平板、上質紙等)を図るとか、輸出に注力する(鉄鋼、銅、上質紙等)などの動きをみせているが、商況の基調は目先なお弱含みをたどるとみる向きが多い。

品目別の動きは次のとおり。

鉄鋼……条鋼類が大幅に下落、鋼板類も統落を示した。最近の市況軟化は金融引締めの浸透に伴う中間需要の減退による面が大きい、これには家電業界等の生産手控えや輸出環境の悪化などをながめ、市場人氣が後退していることも響いてみるとみられる。このため、これまで値上がり幅の大きかった条鋼類については依然先安感が強い。

繊維……合繊糸、生糸が統落したほか、綿糸、そ毛糸も高値訂正場面をみせるなど、ほぼ全面安となった。綿糸、そ毛糸の値下がり、中小糸商を中心とした利食い売りが主因で、需給動向に格別の変化はみられない。一方合繊関係では、二次製品の売れ行き鈍化やメーカーの質織削減などをながめて、機屋の糸手当てが一段と慎重になっている。生糸も株価暴落に伴う投機筋の投げもあって大幅修正安となった。

非鉄金属……銅が大幅に反落したほか、鉛、すず等も弱含みに推移した。米国景気の後退などによる海外相場下落が主因で、先安見通しからユーザーは買い控え態度を強めている。電気銅の山元在庫は、地金輸出の実施(4～5月18千トン)後も累増傾向にあり、メーカーは再び過剰玉整理のための輸出を検討している。

石油……C重油は品不足を背景に引き続き強含みに推移したが、ガソリンは天候不順による需要の伸び悩みもあって保合い、灯油は需要期明けから弱含みとなった。

セメント……生コン市況の底入れを背景に、メーカーが漸次売り腰を強めているため、市況は保合っているが、天候不順や金融引締めの浸透もあって、荷動きは低調。

木材……間屋筋の手当て態度は引き続き慎重で、合板需要堅調の南洋材を除き、全般に弱含み。

化学品……総じて堅調を続けており、二次製品の値上がりが依然目だっているが、ここへきて需要の先行き見通し難(ポリスチレン、化学肥料)や増設設備の稼働(純トリオール、ベンゾール)などから、需給がやや緩和ぎみとなっているものもみ

られる。

紙……アート・コート紙は堅調を続けたが、上質紙、段ボール原紙、クラフト紙等は増設設備の稼働による供給増を主因に軟化した。これに対しメーカーは、在庫凍結(上質紙、クラフト紙)、操短(段ボール原紙)、輸出注力(上質紙)などの対策を打ち出している。

砂糖……春闘ストや原糖の入着遅れなどによる生産伸び悩みから、市況は5月前半堅調を維持したが、月央以降は海外粗糖相場の反落、ストの妥結などから軟化した。

(卸売物価——4月続騰後騰勢一服模様)

4月の卸売物価は、総平均で前月比+0.4%と引き続き上昇し、朝鮮動乱時(25年3月～26年4月、14ヵ月)を上回る15ヵ月の連騰を記録した。類別にみると、これまで卸売物価上昇をリードしてきた鉄鋼が15ヵ月ぶりに反落したほか、食料品も続落したが、反面、繊維品(綿糸、生糸)、非鉄金属、木材・同製品(合板、建具)、機械器具(プ

レス機械、配線器具、はん用モーター)、金属製品(鉄管継手、やすり)等が値上がりした。

もっとも、4月の動きを旬別にみると、上旬+0.3%のあと、中旬-0.1%、下旬+0.1%となっており、また5月にはいつてからも、上旬+0.1%、中旬-0.1%と、このところ騰勢一服模様に推移している。5月にはいつてからは、木材・同製品、紙・パルプ・同製品、機械器具等が引き続き上昇したが、鉄鋼、非鉄金属、食料品等は騰勢一服ないし下落を示した。

産業別分類でみると、4月は非工業製品が食料品(鶏卵、干のり)、国産原木、鉄くず等の値下がりから前月比-0.8%の大幅下落を示したが、工業製品は中小企業性製品の上昇から+0.6%の続騰となった。5月にはいつてからも、非工業製品が引き続き下落した(上、中旬とも各-0.2%)ほか、工業製品も中旬には15ヵ月ぶりに反落した(上旬+0.2%、中旬-0.1%)。

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比上昇率		最 近 の 推 移(前月(旬)比上昇率)									
		43年度 平均	44年度 平均	45 年			45 年 4 月			45 年 5 月			
				2 月	3 月	4 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	中 旬		
総 平 均	100.0	+ 0.6	+ 3.2	+ 0.5	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.3	- 0.1	+ 0.1	+ 0.1	- 0.1		
食 料 品	15.7	+ 5.2	+ 4.2	- 0.1	- 0.5	- 0.2	- 0.1	- 0.3	+ 0.1	保 合	- 0.2		
繊 維 品	10.7	- 0.9	+ 0.4	+ 0.4	+ 0.7	+ 1.1	+ 0.8	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.2		
鉄 鋼	9.7	- 4.4	+ 11.3	+ 2.3	+ 0.3	- 0.9	- 0.3	- 0.4	- 0.4	- 0.1	- 0.8		
非 鉄 金 属	4.4	- 0.5	+ 18.2	- 1.0	+ 2.9	+ 1.8	+ 0.5	+ 0.4	- 0.1	保 合	- 0.7		
金 属 製 品	3.8	+ 0.7	+ 3.0	+ 0.4	+ 0.5	+ 1.0	+ 0.3	保 合	+ 0.5	保 合	保 合		
機 械 器 具	22.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.1		
石油・石炭・同製品	5.6	- 1.3	- 1.5	+ 0.1	+ 0.5	+ 0.3	+ 0.4	- 0.5	保 合	保 合	+ 0.3		
木材・同製品	6.2	+ 5.2	+ 3.0	+ 0.3	+ 0.4	+ 1.0	+ 0.7	- 0.2	+ 0.2	+ 0.3	+ 0.2		
窯 業 製 品	3.0	+ 1.8	+ 2.3	+ 0.7	+ 0.7	+ 0.6	+ 0.4	+ 0.1	保 合	+ 0.3	+ 0.1		
化 学 品	7.6	- 2.2	- 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合		
紙・パルプ・同製品	3.4	- 0.9	+ 3.7	+ 4.0	+ 0.9	+ 0.5	+ 0.4	保 合	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1		
雑 品 目	7.9	+ 0.9	+ 2.7	+ 0.8	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.1	保 合	+ 0.1	+ 0.4	保 合		
工 業 製 品	82.0	+ 0.3	+ 3.0	+ 0.6	+ 0.5	+ 0.6	+ 0.4	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.2	- 0.1		
うち 大 企 業 性	59.6	- 0.4	+ 2.3	+ 0.3	+ 0.5	+ 0.4							
中小企業性	21.0	+ 2.2	+ 4.4	+ 1.0	+ 0.7	+ 1.1							
非 工 業 製 品	18.0	+ 2.1	+ 4.1	+ 0.3	- 0.2	- 0.8	- 0.2	- 0.7	- 0.4	- 0.2	- 0.2		

(注) 本行調べ。

(4月の工業製品生産者物価——統騰)

4月の工業製品生産者物価は、総平均で前月比+0.6%と統騰した。類別では、合成繊維が統騰したほか、普通鋼鋼材も14か月ぶりに反落したが、反面、天然・化学繊維、非鉄金属、木材・同製品は大幅統騰をみた。

工業製品生産者物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)		
		43年度 平 均	44年度 平 均	45 年		
				2 月	3 月	4 月
総 平 均	100.0	+0.3	+2.4	+0.5	+0.5	+0.6
食 料 品	12.6	+5.7	+2.4	+0.4	保 合	+0.7
天然および化学繊維	3.0	-4.7	-1.1	-0.7	+3.0	+2.3
合 成 繊 維	1.4	-6.4	-3.1	-0.1	-0.3	-0.9
織 物	2.8	-0.5	+1.3	-0.2	+0.1	+0.6
繊維二次製品	3.2	+5.3	+3.4	+0.4	+1.1	+0.3
普通鋼鋼材	7.2	-5.3	+10.2	+2.0	+0.2	-0.5
特殊鋼鋼材その他	2.5	-2.1	+3.0	+0.3	+0.5	+1.0
非 鉄 金 属	4.4	-0.5	+16.5	-1.6	+2.7	+1.9
金 属 製 品	4.6	+0.6	+2.2	+0.3	+0.4	+1.2
一 般 機 械	10.4	+2.1	+1.6	+0.3	+0.4	+0.6
輸 送 機 械	8.3	-1.6	-1.2	+0.1	保 合	保 合
電気機械器具	9.1	-1.0	+0.1	+0.6	保 合	+0.2
石油・石炭製品	3.7	-1.3	-1.6	+0.2	保 合	+0.3
木材・同製品	5.0	+5.1	+3.5	+0.4	+1.0	+2.3
窯 業 製 品	3.4	+0.9	+1.4	保 合	+0.2	+0.2
化 学 品	7.8	-2.6	-1.0	+0.1	+0.1	保 合
紙・パルプ・同製品	4.5	-0.1	+2.9	+2.5	+0.7	+0.8
雑 品 目	6.1	+0.2	+2.7	+1.3	+0.5	+0.3

(注) 本行調べ。

(5月の消費者物価——反落)

5月の消費者物価(東京、速報)は、総平均で前月比-1.2%と6か月ぶりに反落し、前年同月比上昇率も+6.7%といくぶん鈍化した(1~3月+8.1%、4月+7.8%)。これは、野菜(前月比-21.9%)、くだもの(同-9.2%)等を中心とする季節商品が出回り増から大幅に下落したため、このほか光熱費、被服費も値下がりしたが、反面、住居費(家具什器等)、雑費(入浴料金、理容衛生代、PTA会費等)は上昇を示し、季節商品を除く総合では前月比+0.1%と、騰勢を持続した。

(4月の輸出入物価——輸出物価の騰勢やや鈍化)

4月の輸出物価は、総平均で前月比+0.2%と17か月の統騰となったが、騰勢はこのところしだいに鈍化している(1月+0.8%、2月+0.4%、3月+0.3%)。財別には、食料品(冷凍まぐろ、みかんかん詰等)、雑品目(運動具、合板等)は依然上昇を続けたが、米国向けを中心に金属・同製品のほか、非金属鉱物製品、機械器具等が騰勢鈍化ないし値下がりをもせた。

一方、輸入物価は、前月比+0.4%と7か月の統騰となった。値上がりの主因は食料品(粗糖、とうもろこし、バナナ、コーヒー豆等)で、このほか化学製品、鉱物性燃料(原油、原料炭等)、雑品目(石綿、牛脂等)も上昇したが、金属(鉄鉱石、銅鉱石等)、機械器具(電子計算機等)は反落した。

この結果、交易条件指数は前月比-0.2ポイント下落し、2月以来3か月連続の悪化となった。

消費者・輸出入物価指数の推移

(単位・%)

			ウ エ イ ト	前年度比 上 昇 率		最近の推移 (前月比上昇率)			最 近 の 年 月 同 比
				43年 度 平 均	44年 度 平 均	45 年			
						3 月	4 月	5 月	
消 費 者 物 価	東 京	総 合	100.0	+5.2	+6.6	+1.2	+0.7	-1.2	+ 6.7
		(季節商品 を除く)	91.4	+5.6	+5.6	+0.3	+0.7	+0.1	+ 5.6
		食 料	40.9	+6.5	+8.1	+2.1	+0.4	-3.1	+ 7.6
		住 居	10.7	+2.4	+3.0	+0.3	+0.2	+0.3	+ 5.3
		光 熱	4.5	+0.3	+0.3	-0.1	+0.1	-0.7	+ 0.2
	全 国	被 服	13.0	+5.5	+7.2	+1.3	+0.3	-0.7	+10.5
		雑 費	31.0	+5.3	+6.3	+0.4	+1.5	+0.5	+ 5.2
		総 合	100.0	+4.9	+6.4	+0.8	+1.1		+ 8.3
		(季節商品 を除く)	(91.4)	+5.3	+5.2	+0.2	+1.0		+ 5.9
		人 上 の 5 都 市 以 上	総 合	100.0	+4.9	+6.6	+0.9	+1.2	
輸 入 物 価	輸 入 物 価	(季節商品 を除く)	(91.3)	+5.3	+5.3	+0.4	+1.0		+ 6.0
		輸 出		+0.6	+4.0	+0.3	+0.2		+ 6.0
		輸 入		-0.3	+3.8	+0.6	+0.4		+ 4.7
輸 入 物 価				+0.9	+0.2	-0.2	-0.2		+ 1.2

(注) 1. 消費者物価は総理府統計局、輸出入物価は本行調べ。
2. 45年5月は速報。

◇国際収支は外人証券投資の流入減などから黒字幅縮小

4月の国際収支は、貿易収支が316百万ドルの

黒字(前月同 399 百万ドル)となったものの、長期資本収支が外人証券投資の流入超幅縮小を主因にかなりの赤字となったことなどから、総合収支では 53 百万ドルの小幅黒字(前月同 167 百万ドル)となった。なお、季節調整後の貿易収支は、輸入が増勢を続けた一方、輸出も高水準を持続したため、月中 310 百万ドルとほぼ前月(黒字 317 百万ドル)並みの黒字となった。

長期資本収支は 121 百万ドルの大幅流出超となった。これは、本邦資本が世銀に対する貸付(約 1 億ドル)のあった前月に比べれば小幅化したものの、延払信用や円借款供与の高水準から月中 150 百万ドルの流出超(前月同 270 百万ドル)となった一方、外国資本は証券投資の流入超幅縮小(月中流入超 19 百万ドル、前月同 97 百万ドル)などから 29 百万ドルの小幅流入超(前月同 95 百万ドル)にとどまったためである。

金融勘定では、為銀の対外ポジションは買持輸出形が前月末買取り集中の反動からあまりふえなかったため、月中 2 百万ドルの改善にとどまり、一方、外貨準備は 55 百万ドルの増加となった(月末残高 3,923 百万ドル)。

4 月の輸出は前年同月比 +21.9%、季節調整後の前月比でも +1.1% と高水準を持続した。商品別(通関ベース)にみると、化学肥料(前年同月比 +138%)、人造プラスチック(同 +48%)等の化学製品、事務用機器(同 +111%)、オートバイ(同 +47%)、鉄鋼(同 +38%)が引き続き高い伸びをみせたほか、船舶、原動機等も好伸したが、反面、テレビ(同 -1%)は米国向けの低調から前年を下回り、綿織物(同 -20%)、非金属鉱物製品(同 -1%)も停滞を続け

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	44 年			45 年			前年 4 月
	7~ 9 月	10~ 12 月	1~ 3 月	2 月	3 月	4 月	
経 常 収 支	672	766	76	91	176	164	236
貿易収支	1,067	1,159	587	230	399	316	349
輸 出	4,155	4,494	4,048	1,338	1,650	1,513	1,241
輸 入	3,088	3,335	3,461	1,108	1,251	1,197	892
貿易外収支	△ 357	△ 356	△ 451	△ 137	△ 174	△ 130	△ 96
移 転 収 支	△ 38	△ 37	△ 60	△ 2	△ 49	△ 22	△ 17
長期資本収支	△ 106	△ 178	△ 436	△ 52	△ 175	△ 121	△ 19
基礎的収支	566 (337)	588 (339)	360 (49)	39 (129)	1 (△ 81)	43 (37)	217 (234)
短期資本収支	61	141	182	33	91	92	31
誤 差 脱 漏	31	19	162	25	75	82	42
総 合 収 支	658	710	△ 16	97	167	53	144
金 融 勘 定	658	710	△ 16	97	167	53	144
外 貨 準 備	137	270	372	13	238	55	△ 110
増 減 そ の 他	521	440	△ 388	84	△ 71	2	254
外 貨 準 備 高	3,226	3,496	3,868	3,630	3,868	3,923	3,103
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	391	694	395	469	395	397	△ 567

- (注) 1. カッコ内は貿易収支のみを季節調整した基礎的収支。
2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国 際 収 支			通 関		輸 出	輸 入	輸 入
	輸 出	輸 入	貿 易 じ り	輸 出	輸 入	信用状	認 証	承 認
44年								
1~3 月	1,203 (+ 4.1)	909 (+ 2.8)	294	1,234 (+ 5.1)	1,153 (+ 2.6)	1,017 (+ 6.6)	1,260 (+ 2.6)	1,077 (+ 3.3)
4~6 月	1,277 (+ 6.2)	942 (+ 3.7)	335	1,306 (+ 5.9)	1,176 (+ 2.0)	1,044 (+ 2.7)	1,355 (+ 7.6)	1,232 (+ 14.4)
7~9 月	1,336 (+ 4.6)	1,056 (+ 12.1)	280	1,359 (+ 4.0)	1,337 (+ 13.6)	1,131 (+ 8.4)	1,414 (+ 4.4)	1,247 (+ 1.3)
10~12 月	1,394 (+ 4.3)	1,090 (+ 3.2)	304	1,416 (+ 4.2)	1,345 (+ 0.6)	1,216 (+ 7.5)	1,513 (+ 7.0)	1,268 (+ 1.6)
45年								
1~3 月	1,499 (+ 7.5)	1,167 (+ 7.0)	332	1,538 (+ 8.6)	1,479 (+ 10.0)	1,235 (+ 1.6)	1,584 (+ 4.7)	1,401 (+ 10.5)
44年 12 月	1,446 (+ 5.3)	1,083 (- 0.5)	363	1,470 (+ 5.1)	1,328 (- 0.5)	1,242 (+ 1.8)	1,549 (+ 3.8)	1,259 (+ 2.3)
45年 1 月	1,496 (+ 3.5)	1,137 (+ 5.0)	359	1,532 (+ 4.2)	1,458 (+ 9.7)	1,257 (+ 1.2)	1,555 (+ 0.4)	1,357 (+ 7.7)
2 月	1,488 (- 0.5)	1,168 (+ 2.7)	320	1,518 (- 0.9)	1,459 (0)	1,269 (+ 1.0)	1,563 (+ 0.5)	1,417 (+ 4.5)
3 月	1,512 (+ 1.6)	1,195 (+ 2.3)	317	1,565 (+ 3.1)	1,521 (+ 4.3)	1,178 (- 7.2)	1,633 (+ 4.4)	1,430 (+ 0.9)
4 月	1,528 (+ 1.1)	1,218 (+ 1.9)	310	1,546 (- 1.3)	1,496 (- 1.7)	1,257 (+ 6.7)	1,593 (- 2.4)	1,316 (- 8.0)

- (注) 1. 四半期計数は月平均額。
2. カッコ内は前期(月)比増減率(%)。
3. 季節調整はセンサス局法による。

た。仕向け先別には、米国向け(同+14%)が上記テレビをはじめテープレコーダー、綿・毛織物、非金属鉱物製品等の減少や鉄鋼、ラジオの不振から伸び悩みの色を濃くしたほか、東南アジア向け(同+5%)も綿織物、自動車、ラジオを中心に停滞したものの、西欧向け(同+48%)は鉄鋼、化学製品等の好伸から相当の増勢を持続し、共產圏向け(同+104%)も中共向け(同+221%)を中心に

高い伸びを示した。

5月中の輸出信用状接受高は、前年同月比+19.6%、季節調整後の前月比では-0.1%と、高水準ながら騰勢が鈍化した。品目別に前年同月比でみると、自動車、一般機械を中心とする機械が引き続き伸長したほか、非鉄金属製品も銅地金輸出があって増加したが、繊維製品、雑貨等は低調に推移しており、また鉄鋼製品も米国向けの停滞

通 関 輸 出 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44 年		45年	45 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2 月	3 月	4 月
食 料 品	169 (+ 52)	129 (+ 1)	125 (+ 22)	41 (+ 38)	49 (+ 15)	52 (- 11)
魚 介 類	81 (+ 12)	82 (- 3)	59 (+ 12)	20 (+ 16)	22 (+ 24)	20 (+ 5)
繊維製品	580 (+ 13)	662 (+ 8)	497 (+ 6)	181 (+ 8)	204 (+ 10)	187 (+ 4)
綿 織 物	54 (- 10)	60 (- 18)	40 (- 21)	14 (- 25)	17 (- 14)	15 (- 20)
合繊維物	136 (+ 31)	166 (+ 27)	123 (+ 27)	44 (+ 26)	53 (+ 32)	48 (+ 22)
化学製品	291 (+ 33)	301 (+ 30)	287 (+ 44)	105 (+ 60)	111 (+ 43)	104 (+ 43)
非金属 鉱物製品	100 (+ 23)	105 (+ 11)	86 (+ 1)	30 (+ 4)	34 (- 5)	32 (- 1)
金属製品	770 (+ 25)	870 (+ 31)	820 (+ 36)	281 (+ 37)	331 (+ 34)	308 (+ 40)
鉄 鋼	559 (+ 23)	651 (+ 36)	633 (+ 41)	213 (+ 39)	256 (+ 39)	220 (+ 38)
機械機器	1,859 (+ 27)	2,059 (+ 23)	1,933 (+ 27)	596 (+ 23)	794 (+ 23)	703 (+ 24)
(船舶を除く)	1,601 (+ 35)	1,713 (+ 22)	1,536 (+ 26)	510 (+ 21)	622 (+ 27)	589 (+ 24)
テ レ ビ	110 (+ 30)	100 (+ 16)	71 (+ 16)	24 (+ 12)	28 (+ 20)	25 (- 1)
ラ ジ オ	163 (+ 37)	174 (+ 33)	136 (+ 29)	47 (+ 30)	56 (+ 30)	56 (+ 28)
自 動 車	224 (+ 21)	267 (+ 25)	266 (+ 21)	85 (+ 14)	104 (+ 21)	100 (+ 19)
船 舶	257 (- 8)	345 (+ 27)	397 (+ 35)	87 (+ 37)	172 (+ 9)	113 (+ 30)
光学機器	116 (+ 18)	124 (+ 13)	105 (+ 19)	36 (+ 17)	42 (+ 20)	40 (+ 13)
そ の 他	471 (+ 22)	445 (+ 10)	383 (+ 15)	132 (+ 15)	149 (+ 10)	148 (+ 9)
合 計	4,240 (+ 25)	4,571 (+ 20)	4,131 (+ 25)	1,366 (+ 24)	1,672 (+ 22)	1,533 (+ 21)
(船舶を除く)	3,983 (+ 28)	4,225 (+ 20)	3,734 (+ 24)	1,279 (+ 24)	1,500 (+ 24)	1,420 (+ 21)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

通 関 輸 入 の 内 訳

(単位・百万ドル)

	44年		45年	45 年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2 月	3 月	4 月
食 料 品	538 (+ 21)	584 (+ 20)	579 (+ 15)	197 (+ 18)	207 (+ 19)	191 (+ 16)
小 麦	75 (+ 2)	75 (+ 3)	82 (+ 13)	27 (+ 11)	30 (+ 6)	16 (- 37)
とうもろこし	54 (+ 1)	72 (+ 15)	74 (+ 26)	23 (+ 19)	24 (+ 45)	26 (+ 36)
砂 糖	48 (+ 85)	56 (+ 75)	58 (+ 11)	19 (+ 15)	21 (+ 7)	21 (+ 33)
原 燃 料	2,176 (+ 17)	2,316 (+ 18)	2,421 (+ 26)	767 (+ 27)	865 (+ 32)	845 (+ 34)
羊 毛	108 (+ 17)	87 (- 6)	97 (- 3)	31 (- 1)	34 (- 2)	25 (- 19)
綿 花	97 (- 14)	104 (- 11)	111 (+ 2)	37 (- 6)	42 (+ 18)	42 (+ 18)
鉄 鉱 石	253 (+ 20)	255 (+ 16)	265 (+ 22)	87 (+ 29)	89 (+ 15)	97 (+ 30)
鉄鋼くず	66 (+ 103)	70 (+ 30)	66 (+ 108)	18 (+ 138)	23 (+ 343)	26 (+ 122)
大 豆	69 (+ 5)	77 (+ 10)	87 (+ 33)	30 (+ 34)	25 (+ 60)	23 (+ 9)
木 材	337 (+ 12)	342 (+ 15)	338 (+ 28)	108 (+ 25)	125 (+ 38)	114 (+ 15)
石 炭	185 (+ 37)	184 (+ 36)	188 (+ 26)	63 (+ 15)	69 (+ 33)	83 (+ 76)
原 油	456 (+ 13)	536 (+ 18)	544 (+ 17)	165 (+ 15)	205 (+ 23)	180 (+ 21)
化学製品	195 (+ 12)	209 (+ 9)	239 (+ 29)	76 (+ 34)	83 (+ 35)	82 (+ 35)
機械機器	438 (+ 43)	429 (+ 23)	561 (+ 54)	183 (+ 42)	217 (+ 56)	167 (+ 32)
鉄 鋼	50 (- 11)	66 (- 13)	81 (+ 24)	22 (- 17)	35 (+ 64)	22 (+ 40)
非鉄金属	244 (+ 68)	256 (+ 35)	262 (+ 24)	86 (+ 26)	83 (+ 9)	74 (+ 19)
そ の 他	243 (+ 36)	260 (+ 39)	259 (+ 51)	83 (+ 49)	93 (+ 59)	94 (+ 55)
合 計	3,883 (+ 23)	4,120 (+ 20)	4,403 (+ 29)	1,415 (+ 27)	1,583 (+ 33)	1,475 (+ 32)

(注) カッコ内は前年同期(月)比増減率(%)。

に加え、このところ伸長著しかった中共、西欧向けも増勢が鈍化したため、伸び率(+19%、3月+36%、4月+33%)が若干低下した。地域別にみると、米国向けは自動車が増加したためやや高い伸びとなったが、非米地域向けは、西欧、中共を中心とする鉄鋼の増勢鈍化などから伸び率が低下した(欧州向け、前年同月比3月+72%、4月+51%、5月+25%)。

4月の輸入は、前年同月比+34.2%、季節調整後でも前月比+1.9%と増勢を持続した。品目別(通関ベース)にみると、鉄くず(前年同月比+122%)、銑鉄(同+40%)等が引き続きかなり増加したほか、銅鉱(同+175%)、石炭(同+76%)も大幅な伸びを示すなど、鉄鋼・非鉄原料の増加が目だったが、これには輸入価格の上昇も相当響いている(C I F建輸入単価の前年同月比騰落率、鉄くず+55%、銅鉱+35%、銑鉄+67%)。その他の品目では、重油(前年同月比+92%)、事務用機器(同+58%)、化学製品(同+35%)が高い伸びを

みせた。

先行指標である4月の輸入承認額は、前年同月比+4.3%、季節調整後の前月比では-8.0%となった。前年比の伸びが低いのは、前年同月にソ連材および原子力発電設備の輸入承認が集中したためであり(これらを調整すると前年同月比+26%)、また季節調整後の前月比で減少したのは、年初来大幅増加(1~3月の前期比+10.5%)が続いたことの反動とみられる。品目別には、非鉄金属鉱(前年同月比+278%)、鉄くず(同+127%)、石炭(同+68%)等が引き続き増加した。

なお、3月の輸入素原材料在庫(製造業、季節調整済み)は、船繰り難や価格高騰による買付け手控えなどから、鉄くず、石炭等の入着が減少したこともあって前月比+1.6%の増加にとどまり、一方、同消費はこれを上回る増加(前月比+3.9%)となったため、同在庫率指数は90.5(前月92.4)と下落した。